

第1章 児童生徒の自殺の現状と課題

- 目的：これまで県教育委員会が取り組んできた学校における自殺予防対策及び今後の対策を、体系的・総合的に整理し、その方向性や内容を理解しやすいものとする。
- 位置づけ：県立学校を対象とした総合的な対策
- 国及び千葉県の動向

- 現状：成人を含む自殺者総数は減少しているが、小中学生・高校生の自殺者数は増加傾向
- 課題：児童生徒からのSOSの確実な把握と対応、人権教育の推進と心理的安全性の高い学校づくり、教職員の意識向上、学校・家庭・関係機関の連携

第2章 自殺予防のための視点

- ・自殺対策の3段階
- ◇プリベンション …①平常時の対策…発達支持的生徒指導・課題未然防止教育
- ◇インターベンション…②予兆を掴む対策…課題早期発見対応
- ◇ポストベンション …③危険度が高い状態への対策…困難課題対応的の生徒指導

平常時の対策

- (1) 県教育委員会における対策
 - ①「千葉県自殺対策推進計画」に基づく対応
 - ②各種相談環境の整備と周知
 - ③自殺予防に係る動画・リーフレット等による啓発
 - ④スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置による教育相談・福祉的支援体制整備
 - ⑤自殺予防に係る教職員研修の実施
 - ⑥学校におけるハラスメント根絶に向けた取組
- (2) 学校における対策
 - ①情報共有を含む校内組織体制及び教育相談体制の整備（チーム支援体制の整備）
 - ②各種相談窓口の周知と見守り体制の強化
 - ③人権教育、道徳教育、生命の安全教育の推進
 - ④心理的安全性の高い学級づくり・部活動経営
 - ⑤不登校児童生徒支援を含む児童生徒理解の促進
 - ⑥いじめの防止（未然防止・早期発見・早期対応・重大事態への適切な対応）
 - ⑦自殺予防教育の推進（SOSの出し方教育）

予兆を掴む対策

- (1) 県教育委員会における対策
 - ①関係機関との即時的な情報連携体制の整備
 - ②各種相談環境の整備と充実
 - ③1人1台端末を活用した心や体の変化を早期に発見する体制の整備
- (2) 学校における対策
 - ①全児童生徒との教育相談、各種アンケート調査等による心身の変化の把握
 - ②1人1台端末を活用した心や体の変化の早期発見と対応
 - ③出欠席、遅刻・欠席理由、遅刻者・欠席者の所在確認の徹底
 - ④教職員間での情報共有（機動的連携型支援チーム、校内連携型支援チーム、ネットワーク型支援チームによる連携・協働）

危険度の高い状況における対策

- (1) 県教育委員会における対策
 - ①指導主事等による学校との情報連携及び緊急的な支援
 - ②関係機関との緊急的な情報連携体制の整備
 - ③専門機関等との連携
- (2) 学校における対策
 - ①校内組織による緊急対応
 - ②保護者と連携した見守り体制構築や関係機関との連携
 - ③スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる児童生徒支援

第3章 各段階における具体的な対策

第4章 総合的な対策の評価と改善

- 教育庁内連絡会議の実施と教育委員会会議における進捗状況報告
- いじめ対策調査会による評価

- 評価の視点
 - ・県教育委員会の対策の実施状況
 - ・学校の対策の実施状況

- ・各対策の内容の是非
- ・自殺等の発生状況